

京都大学白浜水族館水槽でギンタカハマ（ニシキウズ科）が 夜間出現（2012 年）

久保田 信

Night appearance of *Tectus pyramis* (Trochidae) in aquarium of the Seto Marine
Biological Laboratory, Kyoto University in the year of 2012

Shin Kubota

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所（〒649-2211 和歌山県白浜町 459）

はじめに

ギンタカハマ *Tectus pyramis* (Born) は京都大学瀬戸臨海実験所付近の岩礁に多産している比較的大型の巻貝である。本種を水槽に生える藻類の掃除役として、日光の一番よく当たる大型水槽（天井から自然光がよく差し込み、人工太陽も設置）に多数収容している。月に数度当番する夜勤の見回りの際に、ギンタカハマの出現数が昼夜で非常に異なることに以前より気づき、実習の際にも「夜の水族館観察」の説明の一例としているが、その具体的なデータを示すため、今回カウントしたので報告する。

記録

岩組みのほぼ水平部分に出現しているギンタカハマの個体数を、一日の様々な時刻に 2012 年 6 月と 7 月に 1 回ずつカウントした（表 1）。水槽や岩の垂直/斜めの壁面に付着する個体はそこでの藻の生え具合が清掃などにより変わるので、貝の数はカウントしなかったが、今回そのような個体は少なかった。岩組の上に置いたサンゴの根元にいる個体は昼夜を問わず見られるので、これは数に含めた。

2012 年夏季、この大型水槽には明らかに夜間にギンタカハマが多数出現した（表 1）。この水槽

には多種多数の魚類（京都大学白浜水族館ライブカメラでも確認できる）、イシサンゴ類やイソギンチャク類、ウニ・ヒトデ・ナマコ類なども収容されているが、魚類の活動や無脊椎動物の行動と本種が夜間に多数出現との関連は不明である。暗黒時には魚類は遊泳せず水槽の底で岩組の隙間で眠っているが（この寝姿も実習で説明）その間に本種は多数が出現している（表 1）。

表 1. 水族館水槽のギンタカハマの出現時刻

月日	6 月		7 月	
	17-18 日		7-8 日	
時刻	貝の出現 個体数		水槽の 明暗	魚類の 遊泳数
18:10	1		明	多数
21:10	38		暗	0
23:45		43	暗	0
1:30	33		暗	0
3:10	22		暗	0
5:55	5		明	多数
8:03	4		明	多数
9:45		9	明	多数
12:12		6	明	多数